

【全体性とココロの成長】

2020年3月現在、コロナウイルスが世界的な問題となっています。今年に開催予定だった東京オリンピックもWHOが認定したコロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）によって延期が決定されました。この手引きを出した直近では、まだコロナウイルスの問題に臨場感があるかと思いますが、時間が経つにつれて臨場感も薄まり過去の記憶と化していくことでしょう。

しかし、この事を通じて気付くべき事や忘れてはいけない事が多くあり、手引きのテーマにしようと思った次第です。

思い返すとトイレットペーパーの騒動は過去にもありました。世界では、1973年にオイルショックをきっかけとする物資不足が噂され、トイレットペーパーの買い占めが全国で起こりました。オイルショックの時は、実際に当時の政府が紙節約を呼びかけた事がきっかけで起こった事でした。紙がなくなるのではないかとの噂が全国に飛び火し、たちまちトイレットペーパーを国民は買いあさったのです。これは日本の歴史においてもオイルショックを象徴する場面としてその様子が教科書にも載っています。

あれから2020年まで、47年もの歳月が流れました。そして今回、コロナウイルスの世界的流行により、再びトイレットペーパーがなくなるという噂がネットで飛び交い、またもや国民はトイレットペーパーを買いあさったのです。

オイルショックの時と違い、コロナウイルスの時のトイレットペーパーの買い占めは、何の根拠もないただの噂でした。しかし、実際にトイレットペーパーが品薄になると、無くなってしまいかも知れないと噂を信じていない人にまで拡がったのです。

47年の歳月は様々な進歩を実現しました。経済は発展し生活は便利になりました。電化製品はもはや貴重なものではなく当たり前のように各家庭にあります。今や修理するよりも買った方が時間もかからず価格も変わらなかつたりします。乗用車（軽自動車含む）は2019年の時点で全国に約6170万台出荷されており、成人がおよそ一人一台を保有している計算になります。格安航空会社（LCC）は驚くべき価格で飛行機での移動を提供し、世界はもっと身近になりました。そして、インターネットの普及により全国はもとより世界はつながり、もはやインターネットが整備されていない国の方が珍しくなりました。携帯電話は成人一人一台を保有し、さらにスマートフォンに進化し、生活スタイルそのものを変化させました。

47年の歳月は様々な変化や進化を生み出しました。

しかし、最も基本的な私たちの必需品である『トイレットペーパー』については、47年前と何ら変わらない状態が起こったのです。

脳大成理論 1-24

トイレットペーパーそのものの質が向上したり、もっと柔らかくなったり2枚重ねになったり、とそういった変化は起こっています。しかし、自分さえ良ければいいというココロは47年前と何も変わっていないのです。研究会で生き方やあり方を研鑽する我々はこの事を深く受け止め、通り過ぎずに立ち止まって考える必要があるのではないのでしょうか。

そう、47年前と何ら変わっていないのです。

人は精神性において、成長していないのではないのでしょうか。この事は本手引きにおいて度々出てくるテーマです。確かに物質的には便利になりました。しかし、残念ながら精神性においては何も変わっていないと言えるのです。

間違いなく現代は、精神の充足が枯渇しています。平たい言い方をするとココロが乾いているのです。それは、それぞれの環境や出来事、時代の問題ではありません。

ここで、ココロが乾いている状態、精神の枯渇について考えたいと思います。

ここでは、霊性を取り入れた心理学における『意識と潜在意識（無意識）』の視点からココロを考察します。左記の視点で言う意識は物質世界であり分断です。（※意識と潜在意識の説明は、脳大成理論の手引き1-13に記載）対して、潜在意識（無意識）は精神世界であり全体です。

つまり、潜在意識から一部を切り取ったモノが意識となるのです。この意味において、量子物理で言うところの「全ては素粒子である」という考え方が理解しやすい人もいるかも知れません。

潜在意識を例えるなら、一台のピアノです。一台のピアノが置いてあるのを想像してください。ピアノを全く演奏していない時、そこには『全ての音がある』のです。そこに一人のピアニストが座ります。まだ何も奏でていません。ピアニストは落ち着いた面立ちで、でもどこか物悲しそうです。そして、そのピアニストが演奏を始めました。奏でたのは、ヴェートーベンの「エリーゼのために」でした。全ての音が存在するピアノから、このピアニストは「エリーゼのために」を抜き取ったのです。顕現させたのです。そのピアニストは演奏を終え颯爽（さっそう）とピアノを後にしました。そして、次に別のピアニストが座りました。ピアニストは、座る様子から何だか軽快な感じが伝わってきます。そのピアニストが演奏を始めました。奏でたのは天空の城ラピュタのテーマソングである「君をのせて」のジャズアレンジでした。全ての音が存在するピアノから、このピアニストは「君をのせて」を抜き取ったのです。顕現させたのです。そしてそのピアニストは演奏を終え軽快にピアノを後にしました。そして、次に別のピアニストが座りました。ピアニストは何だか緊張しているようです。そのピアニストが演奏を始めました。猫背でおぼつかない指運び。奏でたのは「猫踏んじゃった」でした。決して上手とは言えない演奏でした。リズムも一定ではなく、音も時折間違えています。全ての音が存在するピアノから、このピアニストは「猫踏んじゃった」を抜き取ったのです。顕現させたのです。そしてそのピアニストは演奏を終え重い足取りでピアノを後にしました。

脳大成理論 1-24

この例え話からイメージとして受け取って欲しいのですが、ピアノそのものが潜在意識なのです。潜在意識は全体です。全体性がピアノなのです。そこには全ての音が存在しているのです。そして、弾いた曲そのものが意識なのです。つまり、ピアノの問題では全くないのです。今私たちに顕現しているものは意識で認知・認識しているものです。問題が起こっているという認知・認識は意識によるものです。私たちは意識を持って自己と世界を捉えています。しかし、それら全ては潜在意識から顕現されたものなのです。だから問題は、他人でもなければ、環境でも時代でもないのです。あなたのピアノの弾き方の問題なのです。あなたがピアノとどう向き合っているのかだけが問題なのです。これを脳大成理論では『あり方』と定義しているのです。

あらゆる事象は、潜在意識という全体性から一部を抜き取ったものであるにも関わらず、それを全てだと考えてしまうことこそが精神性の低下・枯渇であり、ココロの乾きなのです。

つまり、全体性から離れていくこと、全体性を失うこと、全体性を欠くこと、これこそが最も重大な問題なのです。

私たちが日々の生活の中でどれだけ全体性を意識した思考やあり方に立てるかどうかが最も重要な課題なのです。

トイレットペーパーの話しを振り返るなら、自分だけが良ければいい、自分さえ良ければ良いという考えは、全体性を欠いています。利己的なあり方は、全体性の喪失です。共有を積極的に行わないあり方は精神性の低下です。損か得かだけで物事を考え、自分が傷付かないようにと近視眼的な处世術を求め、すぐに結果が欲しいと答えらしきインスタントなものに飛びつき、何が稼げるのかと本質が空洞化した考えはもはやココロが根腐れを起こしていると言わざる終えません。

シンプルに考えて欲しいのです。決して複雑な事でもなければ難しい事でもありません。あなたはガラス張りの部屋にいます。その部屋の中で、あなた一人だけが高級懐石料理を食べています。そしてガラスの向こうには、お腹を空かせた子ども達がじっとあなたが食べている姿を見えています。

あなたは、本当にココロから美味しいと感じて食事を続けられますか？

多くの人は、利己的所有の思想により本質的に湧き上がってくる罪悪感に打ちのめされないうために、利他的共有をバランス良く取り入れているに過ぎないのです。利他的共有を軸に置いているわけではないのです。

これらを『そんなのきれいごとだ。きれいごとでは生きていけない』と一蹴する人もいるでしょう。そうです、身体を鍛えるのが簡単でないように、会社を大きくするのが簡単でないように、子どもを成長させるのが簡単でないように、決して簡単な事ではありません。しかし、難しいからやめていいのでしょうか？ 私たちはその理想に、きれいごとに向

脳大成理論 1-24

かって自分の本物さを磨き、善と親切と可能性の延長に自分の生き方やあり方を定め、日々の出来事と向き合っていくべきではないでしょうか？

どこからか『そんな堅苦しい生き方していたら楽しくないよ』という声が聞こえてきそうです。『もっと気楽に生きていこうよ』と誰かが語っているのが聞こえてきます。『がんばらなくていいよ、あなたはあなたのままでいいんだから』と耳障りの良い言葉に心が捕らわれそうになります。

きっと、この果てしない挑戦に真剣に向き合った時に二つに分かれることでしょう。

一つは、そんなの無理だから、楽しくやっけていこうよという人。

もう一つは、苦しそうだ、到底たどり着けそうにもない、そんなの目指しただけで心が折れそうで押しつぶされそうだ。息がつまって苦しそうだ。そんな器も実力もわたしみたいなゴミのような存在には持ち合わせていない。

・・・でも、・・・でも、割り切れない。

このままではダメだとココロが騒ぐ。もしくは、突き動かされるようにそのイバラの道に向かってしまう。頭では損する事は分かっている。もっと効率良く楽しく生きていった方が楽なのは分かっている。上手く生きて、それなりに幸せに生きていけばいい。頭では分かっている。

・・・でも、・・・でも、割り切れない。

それが『善』なんです。そのあなたに訪れている感覚が『善』なんです。そうやって、全体性を見いだしていくのです。損だと分かっているながらも、イバラだと分かっているながらもあえてその道を選択するあなたは、盲信しているのではなく、全体性の中にいるのです。

結果はなくとも、どうしてもそうしたいという突き動かされる意識こそが、崇高な精神性と言えるのではないのでしょうか。

心底賛同して欲しいとは言いません。こういう考え方があるんだと受け止める人がいても全く問題ありません。しかし、あなたが全体性を貫く事を余儀なくされるなら、間違いなく脳大成理論はその道しるべです。

教育立国日本の本質はここにあるのかも知れません。